



心地よい距離感の作り方

島田将吾

坂東市立猿島中学校 三年

私は一人の姉がいます。姉たちはもう社会人になつておらず、遠い存在になりつつあります。「二人の姉がいる」と聞くと、皆さんは、さぞかしかわいがられているのだろうと想像するかもしれません。私の姉達は、母や祖母などと違い、私にとても厳しい人です。「家に帰つたらすぐ手を洗え。」とか、「勉強はやつたの。」とか、本当に厳しい人です。でも母や祖母、父に甘やかされて育つた私は「姉の厳しさくらいは耐えなければ。」と思つて姉の言うことに従つています。

そんな姉と私は特別仲がいいわけではありませんが、不思議な距離感があります。以前家族で旅行に行つた時、夕方部屋でくつろいでいると、母が突然「海を見に行かない？」と言いました。インドア派の私は、こんな面倒

臭いことはないと思い、迷わず「俺はいいかな」と断りました。すると、思いの外皆が乗り気だったため、私と一番上の姉二人だけが、部屋に残ることになったのです。私は内心、「何か言われないか。」とか「怒られたらどうしよう」と少し緊張していると、姉が「お土産でも見に行く？」とぶつきらぼうに話しかけてきました。私は、うれしさと気まずさを感じつつ、「行く」と答えました。一瞬だけ、姉との距離が縮まつたかのように思いましたが、食事の時にはいつも怖い姉に戻つていました。

このように、私と姉の間には「不思議な距離感」があります。近すぎないけれど遠すぎない。でも、私にとつては、これくらいの距離感がちょうどいいのです。もしかして姉は、私が感じている「心地よい距離感」を知っているのか

もしません。ただ厳しいだけかと思つていましたが、ちゃんと私のことを理解してくれているのかもしれません。

姉は家族なので、この「心地よい距離感」を分かつてくれています。しかし、友達や周りの人との距離感となると、いつもうまくいくとは限りません。私は、どちらかというと自分から友人に話しかけるタイプではないので、自分で友人たちは、こんな私でも「今日俺ん家来る?」とか「みんなでカラオケ行こうよ。」とゲイゲイ誘つてくれます。そのおかげで、私もみんなの輪の中に入り、楽しく生活できています。私からするとこんなに積極的に話しかけることができてすごいな、自分から話しかけるのは大変だろうな、と思いますが、私の友人はそれを難しいことは思つていないうです。私は、この友人たちが自分との距離を縮めてくれるおかげで、友人との間にも「心地よい距離感」を感じています。

今の時代は、人ととのつながりが希薄になつていると言われています。SNSの普及により、直接人と話さなくともつながることができます。でも、私が姉たちや友人に感じているような「心地よい距離感」は、直接人と人との触れ合つて話をしないと築くことができないものだと思い

ます。心地よいと感じる距離感は一人一人違います。直接触れ合えば、相手が求めている距離感が分かれます。自分が求めている距離感も相手に伝わります。相手の距離感と自分の距離感、どちらも大切にできたとき、そこに「心地よい距離感」が生まれるのではないでしようか。そして、直接つながって生まれた距離感は、時には心から安心できたり、時には自分を思いつきり解放できたりする、大切な心の拠り所となると思います。

皆さんは、周りの人と「心地よい距離感」を作れていますか?相手の距離感を大切にしながら、周りの人たちと、直接つながつてみませんか?

